

アジアで活動する英海軍
自由で開かれたインド太平洋～域外国の視点

第6回海上安全保障シンポジウム
2019年7月24日

海上自衛隊 幹部学校
1等海佐 寺田 博之



Images from googlemap

日 本

面積: 377,974km²

人口: 12631万7000人 (2019.1.1) ※1

名目GDP: \$ 4,971,929m (2018年) ※2

防衛費: \$ 47,300m (2018年) ※3

英 国

面積: 244,820km²

人口: 6643万5600人 (2018年) ※4

名目GDP: \$ 2,828,644m (2018年) ※2

国防費: \$ 56,100m (2018年) ※3

※1 総務省統計局、平成31年1月確定値

※2 International Monetary Fund

※3 Military Balance 2019

※4 Population estimates – Office For National Statistics



海上自衛隊

定員：45,364人(2017.3.31)※1

海上兵力：135隻、48.8万トン※1

作戦機：163機※1



英海軍

人員：32,540人(2019.4.1)※2

海上兵力：130隻、58.0万トン※1

航空機：174機※3

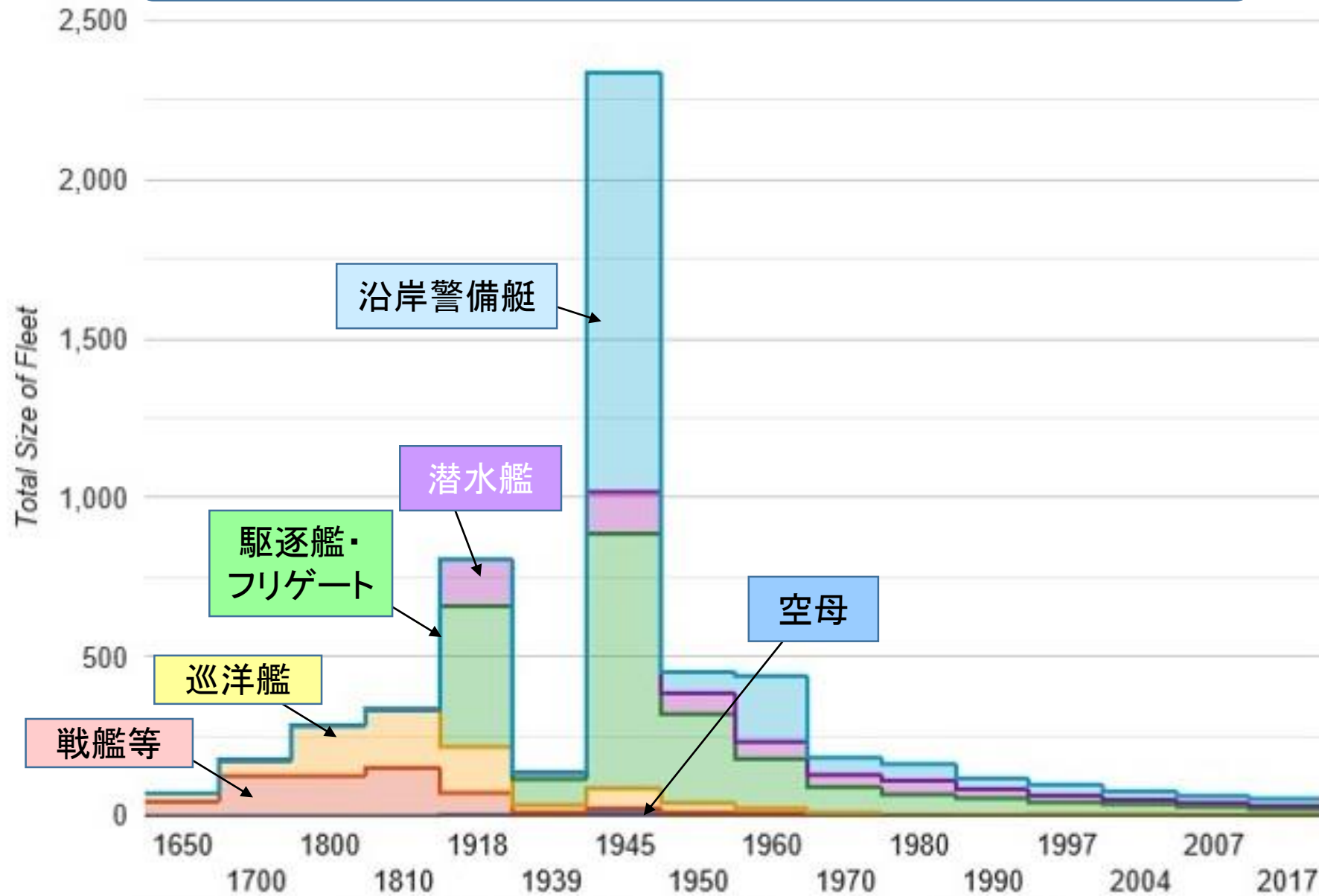
※1 平成30年度防衛白書

※2 UK armed forces quarterly service personnel statistics : 1 April 2019

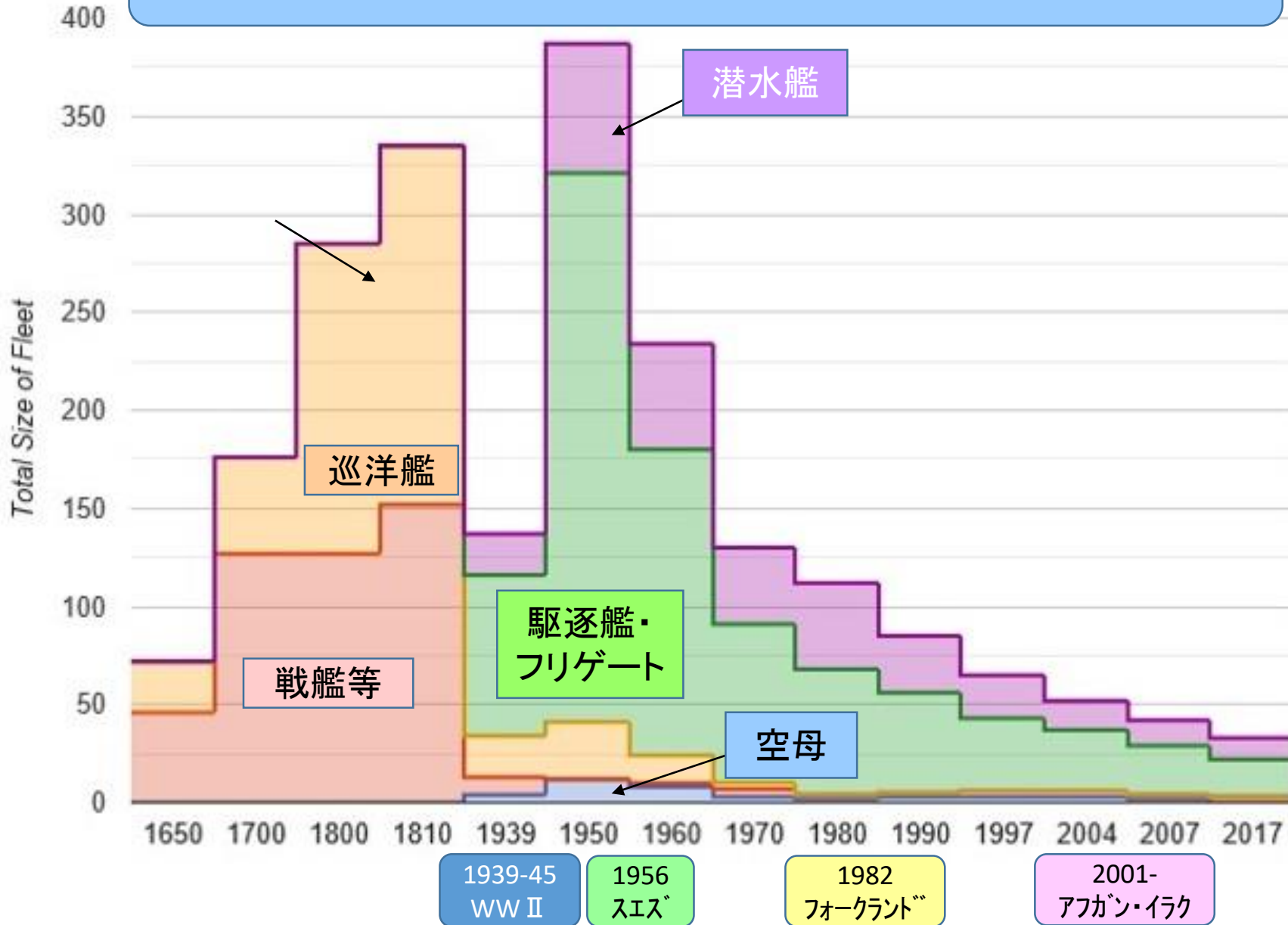
※3 下院における国防政務次官答弁、2015.3.26

“Balanced” Navy?

英海軍の規模



英海軍の規模(沿岸警備艇を除く)



冷戦期の英国軍

1956 第二次中東戦争(スエズ危機)

徴兵制の廃止
正規軍の大幅縮小
核抑止を基礎とするドクトリン
スエズ以東からの撤退
主力はNATOへ、対潜戦重視の海軍

1982 フォークランド紛争
(唯一の英単独による大規模軍事行動)

1989 冷戦終結

ポスト冷戦期の安全保障：日本



Photos : 防衛白書
(防衛省 Website)



ポスト冷戦期の安全保障: 英国

	テーマ	関心地域	脅威認識 (国家主体)
1989～ 2001	地域紛争 平和維持活動	中東(湾岸戦争) 中東欧	ロシア
2001～ 2011頃	テロとの戦い 安定化作戦	中東～アジア アフガン・イラク	
2008～ 継続	海賊対処 移民	アフリカ ～地中海	
現在～ 近未来	FOIP?	アジア(東アジアを 含む)?	

陸空主体の
統合作戦



海上安全保障
への回帰?

1989～2001: 地域紛争



1991 湾岸戦争

1992 ボスニア・ヘルツェゴビナ

1999 コソボ

Photos cited from
Wikimedia Commons

2001～:テロとの戦い



2001 米国同時多発テロ事件



Photos cited from
Wikimedia Commons

2001 アフガン紛争

2003 イラク戦争



Photos cited from
Wikimedia Commons



Photos: DYLAN MARTINEZ / REUTERS

2005 ロンドン同時爆破事件

2008～：海上安全保障への回帰？



2008～ ソマリア沖・アデン湾海賊対処
CTF151/EU/NATO



2015～ 欧州移民危機

2010? ~ : アジアへの回帰

経済: 中国への接近、懸念を抱きつつ期待

- 2015 英国 AIIBへの参加を表明(G7では初)
- 2015 習近平主席の訪英、キャメロン首相と英中首脳会談
 - ・ 英国での原発新設計画など経済関係の強化で合意
 - ・ 英中「黄金時代」宣言
- 2018 メイ首相訪中
 - ・ 英中間の貿易関係の拡大、一帯一路構想での協力などで合意

安保: EU離脱を見据え、新たな国際的役割をアジアに見出す

- 2010 国家安全保障戦略・戦略防衛安全保障見直し
イラク・アフガンへの関与(軍事作戦)の縮小
- 2012 RUSI Japan(英国王立防衛安全保障研究所 アジア本部)の設立
- 2015 国家安全保障戦略および戦略防衛安全保障見直し
アジア太平洋地域への関与を明示、最重要パートナーとして日本を定義
- 2017 豪訪問中の英外相、EU離脱後にアジア太平洋地域でより大きな役割を担う
(必要に応じて英軍の配備も行う)旨を表明

日英安保協力の深化

- 2012. 6 防衛協力のための覚書
- 2013. 7 防衛装備品・技術移転協定発効
- 2014. 1 日英情報保護協定発効
- 2014. 5 日英首脳会談(安倍－キャメロン)
日英「2+2」の開催、ACSAの交渉開始について一致
- 2015. 1 第1回日英「2+2」
- 2016. 5 日英首脳会談(安倍－キャメロン)
日英共同声明 ～21世紀のためのダイナミックな戦略的パートナーシップ～
- 2017. 1 日英ACSA署名、8月発効
- 2017. 8 日英首脳会談(安倍－メイ)「日英安全保障共同宣言」
二国間の安全保障協力に関する行動計画策定で一致
インド太平洋地域について言及
- 2019. 1 日英首脳会談(安倍－メイ)における日英首脳共同声明
インド太平洋地域について強調
海洋安全保障協力について強調



護衛艦「いずも」に乗艦したメイ首相と小野寺防衛大臣
(17(平成29)年8月)

日英首脳共同声明(安全保障関連部分) 2019.1.10

連結性及び安全保障の強化

4. 戦略的パートナーとして、我々は、両国が共有する利益を保護し、国際的及び地域的安全保障を支えるルールに基づく国際システムを維持するため、・・(中略)・・決定する。
5. 我々は、連結性と安全保障に関する実際的な協力を通じ、ルールに基づく国際秩序を支持し、より連結されたインド太平洋地域を発展させていく。この目的のため、また、自由で開かれたインド太平洋に貢献するため、・・(中略)・・協力を強化する。
6. 我々は、自由で開かれたインド太平洋を維持し促進するため、船舶情報の共有の可能性を含め、海洋状況把握等の事項に関する海洋安全保障協力を強化し、また、海洋安全保障協力に関する取決めを作成する意図を有している。(中略)
7. 我々は、両国の防衛パートナーシップを更に広げることにコミットしている。我々は、インド太平洋地域及び欧州において自衛隊及び英国軍の共同演習を増加する。(中略)
8. 我々は、国連安保理改革及び国連事務総長のより広範な改革アジェンダの実施を含む国連に関連する事項についての対話に引き続き関与していく。
9. 我々は、関連する国連安保理決議に従い・・(中略)・・我々は北朝鮮籍船舶が関与する違法な「瀬取り」のような疑わしい海上活動に対する警戒監視活動を通じたものを含む両国のコミットメントも再確認した(中略)
10. 我々は、自由で、開かれ、平和で、公正かつ安全なサイバー空間を促進することに対するコミットメントを改めて表明し、・・(中略)・・我々のリスク管理に係るアプローチを議論する。
11. 我々は、宇宙空間における活動の長期的な持続可能性及び法の支配を促進することに対するコミットメントを改めて表明し、また、宇宙空間における産業協力が進展していることを歓迎する。
12. 上記の関連する要素は、両国間の様々な形式の協議において取り上げられ、安全保障及び防衛協力に関する共同行動計画に盛り込まれる。

- ✓ インド太平洋地域について繰り返し言及
- ✓ 従前は海洋、サイバー、宇宙がほぼ同程度の言及であったところが、海洋安全保障に関する部分を詳述

海上における日英協力

2009～
海上警備行動・海賊対処法
に基づく活動

2001～2010
テロ特措法・補給支援特措法
に基づく活動

2018～
北朝鮮籍船舶の「瀬取り」
に対する活動

注：海域はイメージ

Type23 フリゲート サザーランド
HMS Sutherland(F81)
(2018.5)



Photo by Vicki Benwell, Royal Navy
<http://www.defenceimagery.mod.uk>
Image #45154734



アルビオン級揚陸艦 アルビオン
HMS Albion (L14)
(2018.5~6)

Photo by LA(Phot) Dan Hooper
<http://www.defenceimagery.mod.uk>
Image #45151289

Type23 フリゲート モントローズ
HMS Montrose (F236) (2019.2~3)



Photo by POA(Phot) Mick Storey
<http://www.defenceimagery.mod.uk>
Image #45145955

Type23 フリゲート アーガイル
HMS Argyll (F231)
(2018.12) (2019.1)



Photo by LA(Phot) Caz Davies
<http://www.defenceimagery.mod.uk>
Image #45153839

「王立海軍艦艇が北朝鮮の制裁回避を確認」

英国防省プレスリリース(2019. 4. 5)(仮訳)

北朝鮮に対する国連制裁の履行を行う**王立海軍艦艇が、洋上の違法な積替えの追跡に成功した**。日本のパートナーと連携して、「HMS モントローズ」は、北朝鮮籍船舶が東シナ海で、国籍不明の船舶と接舷していることを発見した。これらの船舶は国連制裁で禁止されている船舶間の積替えを実施していたと考えられる。(中略)ウィリアムソン国防大臣は次のように述べた。「**我が王立海軍の昨年からの東アジアにおけるプレゼンスは、北朝鮮に対する国際的な制裁を回避しようとする試みに対する強固な抑止となっている。制裁回避の試みは、北朝鮮の核兵器計画を支え、主要な資金源となっている。**」「**制裁は継続する。北朝鮮の完全な、検証可能な、かつ、不可逆的な非核化に向けた具体的な進展が見られるまで、王立海軍はその履行を維持する。**」北朝鮮籍タンカー「SAEBYOL(セビョル)号」は、自らを漁船である旨伝達していたが、公海上で国籍不明の船舶と接舷し、禁止されている洋上の積替えを実施していることが発見された。この活動は3月2日の早い時間帯に発見された。(中略)

「HMS モントローズ」艦長のコナー・オニール中佐は次のように述べた。「我々の東アジアにおける活動は、王立海軍が世界中で実施する究極的には英国の安全を維持する一助となる活動の一部にすぎない。」「私は、違法な活動の証拠の収集に尽力した私の艦艇の乗組員を誇りに思う。これは複雑なプロセスであるが、我々は任務以上のことを達成できた。」制裁履行のための「HMS モントローズ」の東シナ海への派遣は、日本の安倍総理の本年1月の訪英時に公表された。**本ミッションにおける(日英)共同作業の成功は、日英両国の強固な防衛協力を強調するものである。**「HMS モントローズ」はまた、**同地域での滞在中に、日本及び米国のパートナーと共同訓練を行っている。**



The North Korean-flagged tanker SAEBYOL, which was transmitting as a fishing boat, was spotted alongside a vessel of unknown nationality on the high seas, conducting a prohibited ship-to-ship transfer.

Crown copyright

(cited from GOV.UK website; Published 5 April 2019, from Foreign & Commonwealth Office, Ministry of Defence, and The Rt Hon Gavin Williamson CBE MP)

英国にとってのFOIP

- メリット・動機
 - ✓ 海洋安全保障とアジアへの関与
 - ✓ 友好国との連携強化(米:同盟国、日:パートナー、豪・新:コモンウェルス)
 - ✓ 普遍的価値(自由、民主主義、基本的人権、法の支配、市場経済)
 - ✓ 訓練機会の確保

- 制約・懸念
 - ✓ リソースとアセット: 駆逐艦×6、フリゲート×13
 - ✓ 関与の継続性: EU離脱後?
 - ✓ ナラティブ
 - 「法による支配」「力による現状変更の阻止」
 - × 「一帯一路へのカウンター」「米中覇権戦争」

※ 戦略的メッセージの観点に基づく正しいナラティブの選択の必要性については、
石原敬浩「戦略的コミュニケーションとFDO」『海幹校戦略研究』第6巻第1号(2016年7月)参照
<https://www.mod.go.jp/msdf/navcol/SSG/review/6-1.html>

アジアで活動する英海軍
自由で開かれたインド太平洋～域外国の視点

第6回海上安全保障シンポジウム
2019年7月24日

海上自衛隊 幹部学校
1等海佐 寺田 博之